

冬キャンプ 第3回ふるる杯雪合戦



★1月25日(土)～26日(日)小学校3年生から6年生を対象に1泊2日で主催事業『冬キャンプ』が開催されました。今年も『昭和新山国際雪合戦』NPO法人雪合戦インターナショナル様から公式用具をお借りして、中庭で雪合戦



の予定でしたが、例年になく雪の少なさのために会場を体育館にうつし、公式ルールに準じたふるる杯ルールでおこないました。6チームに分かれ、雪球のかわりに紅白玉入れの布製玉を使っての屋内雪合戦です。当日は6名の学生ボランティアのお兄さん・お姉さんが各チームにひとりずつ付いてお手伝いしていただきました。

◆【1日目】開会式のあとチームリーダーを決めたら体育館へ移動です。ストレッチ体操で体をほぐしたあとは、球よけとなる箱「シェルター」を使って投球練習

をしました。特に公式試合では有効な投げ方である、下から上へ放り投げて隠れた敵に当てる「ロブ」も練習しました。雪合戦の試合には色々なルールが設定されています。それをおぼえる為にボランティアの皆さんに（ヘルメット・ゼッケン着用）選手の姿になって敵味方に分かれ、ルール説明にそって動くシミュレーションをしてもらいました。これで第2回の時より参加児童の皆さんにも大体の基本ルールがわかってもらえたようです。チーム員は

攻撃前衛のフォワード4人と自分のチームの基地箱（シャッターと言います）の後ろから球を供給できるボックスの3人です。センターラインを越えて敵エリアに入れるのは3人までです。しかも、フォワードは自分のシャッター前（バックライン）から内側へは戻って入ることは出来ないの



ので、持っている球が無くなったらシャッター裏に置いてある球をボックスに送ってもらうしかありません。●勝利の条件は・・・①敵全員に球を当てて全滅させる！②敵チームのシャッターの前にある敵チームフラッグを引き抜いて取る！です。



休憩をはさんで、いよいよコートの中で練習試合の開始です。6チームのうち2チームが試合をしている間、ほかの2チームは審判員。残り2チームは次の試合の為にベースに置く球を集めて数を合わせます。（1試合でチームが使えるのは90球までです。）昨年とはなかなか動きがみられなかった試合展開でしたが、今回は雪上ではないので、フォワード選手の動きも素早く、イレギュラーなバウンドも起きないのでボックスの補給も

キッチンと行われていました。

食堂での夕食後、夜は2日目の本試合にむけて各チームのフラッグ作りと作戦会議をしました。今年のチームは全員がとてもよくまとまって、みんなで協力してフラッグを作っていました。



◆【2日目】そして、いよいよ本試合です。1試合3分間。時間の都合、各チーム4試合ずつの変形リーグ戦で競い、勝ち点の多いチームが優勝です。さて、今年の試合は最初から熱い展開となりました。雪球よりも鋭いストレート布球が飛び交い、昨年はあまり利用しなかったシャッターも使うようになりました。しかし被弾者続出の決着と思いきや、ほとんどの試合でフラッグ奪取による勝敗となりました。なかでも印象に残ったのは、男女バランス良く戦い優勝候補と意識されはじめた全勝のチームに対して、逆転狙いのフォワード男子が中心のチームの試合です。

なんと、見守る参加者から、全勝優勝阻止を期待する「チーム名コール」が沸き上がりました。その期待の声援のなか、先行する男子達は健闘むなく被弾。残る女子達も果敢に前に出ますが次々と倒れ、最後となったのはボックスだった小柄な女子ひとり。持ち球も尽きた瞬間、敵が囲むフラッグ直前まで猛ダッシュで突っ込んでいきました。残念ながら多勢にはかなわず被弾してしまいました。が、最後まであきらめないその姿は間違いなく今大会の勇者のひとりだと思われました。



結局、その時勝ったチームが最後の試合も制し、無敗の全勝優勝となりました。

★今回の『ふるる杯雪合戦』、屋内での模擬雪合戦になってしまいましたが、どのチームも本当に一致団結・協力して真剣に試合にのぞみ、熱く戦い抜いていました。

今年度最後の「ふるるキャンプ」となった今回の『冬キャンプ』、閉会式の終わりには最後の参加になる小学6年生の皆さんとお別れを惜しんで解散となりました。



☆ご参加された皆さま、ご協力いただきましたボランティアの皆さま、ありがとうございました☆



1 班チーム「雪だるまの工場長」



2 班チーム「Shining Snow」



3 班チーム「オラフ」



4 班チーム「スノーホワイト」



5 班チーム「雪見大福」



6 班チーム「ザ・コース」

★優勝の栄誉に輝いたのは全勝した3班チーム「オラフ」でした。どのチームも1勝はしていましたよ。

